

Ⅲ 改革の成果と課題

1 市立千葉高校

※表中の「満足」の割合は、アンケート調査結果の「とても満足している」と「やや満足している」を合わせたものである。

※表中の「重視」の割合は、アンケート調査結果の「とても重視した」と「やや重視した」を合わせたものである。

※アンケート調査結果の()内の数値は、平成22年度に行った中間まとめの時の数値である。

※表中のページ番号は、別冊「資料編」の参照ページを表している。

※考察は、「研究会」の中で出された意見を基本としている。

No	項目	成果	課題
1	全体としての改革の成果	<p>アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「総合的に判断すると市立千葉高校に満足している」の問いに対して、生徒の76%(82%) p.10、保護者の93%(90%) p.14、卒業生の97%p.16が「満足」と回答している。 ○「充実した施設・設備」に生徒の89%(82%) p.10、保護者の98%(89%) p.14が「満足」と回答している。 ○卒業生が「特に学力の向上に有効だったもの」として、「充実した設備」「1日7限授業」等を挙げている。 p.15 ○卒業生の68%が、市立千葉高校での学習活動が卒業後の進路に生かされていると感じている。 p.16 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ※学校への満足度は高く、全体として改革は良質な成果を収めている。 ○進学重視型単位制に伴い、教員の加配が認められ、多様な選択科目の開設やSSHなどの特色ある教育が可能になっている。 ○1年生から徹底した進路ガイダンスを実施したことで、幅広い教科に対する生徒の学ぶ意欲が向上している。 ○理数教育の成果が、十分浸透しており、卒業生の理系大学への進学率が高い。 	

No	項目	成果	課題
2	多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制	<p>基本調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4年制大学への現役進学率が、平成15年度卒業生の50.5%に対して、21年度卒業生は72.7%、24年度卒業生は73.0%と上昇した。p.2 ○国公立大学現役合格者数が、平成15年度20人、21年度40人に対して、24年度は47人に増加した。p.2 <p>アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「進学指導を重視し授業時数が多く、教科指導が熱心に行われている」という設問に生徒の51%(74%) p.9・保護者の77%(82%) p.12が「満足」と回答している。 ○「単位制で多様な科目から適性や進路希望等に応じて選択して学習できる」という設問に生徒の54%(76%) p.9・保護者の83%(79%) p.12が「満足」と回答している。 ○卒業生の83% p.15が自分の希望どおりにカリキュラムを組むことができたと回答している。また、「科目選択をするに当たり十分なガイダンスが行われている」という設問に、生徒の73%(81%) p.9・保護者の84%(80%) p.13が「満足」と回答している。 <p>聞き取り調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単位制導入により、学校設定科目の増加や幅広い選択科目の設定が実現し、生徒のニーズに対応した教育課程の編成が可能になるとともに、進路意識改革にもつながっている。p.4 ○単位制ではあるが、科目選択では類型に分け、道筋を示して生徒に選択させている。そのことで生徒は、興味関心や進路ニーズに対し、的確に対応した授業を選択している。p.4 <p>考察</p> <p>※多様な進路ニーズに対応した「進学重視型単位制高等学校」という改革は、大きな成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「科目選択に伴う類型化」や「単位制」を導入するとともに、ガイダンス機能を徹底させており、生徒が自分の進路ニーズに応じた科目を選択し学習計画を立てることができている。 ○一方で、高校改革がスタートして7年が経過し、教職員の入れ替わりも起こり始めているが、教員人事が公募制ではないため、SSHや教科指導上の核となる教員がなかなか集まらない。今後、人材確保面での改善が課題である。 	<p>聞き取り調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「進学重視型単位制」は近年、県立の多くの単位制高校にも見られるようになってきた。 今後、2期制における単位の半期認定等、より発展的で、生徒にとって有意義な教育課程を検討していくことが必要である。p.4

No	項目	成果	課題
3	理数教育の伝統	<p>交換意見 ○在学中にJSEC2010(高校生による科学研究に関するコンテスト)の協賛社賞を受賞し、理系大学へ進学した卒業生がいる。p.3</p> <p>聞き取り調査 ○第2期SSH(平成24年度～)では、プレゼンテーションやネイティブ実習助手による言語活動を充実させ、市立高校ならではの市の施設(動物公園、科学館など)との連携も着実に進んでいる。p.4 ○外国人理科実習助手・留学生ティーチングアシストを導入し、英語での理科授業及びプレゼンテーションが行なわれ、国際的な視野に立てる人材の育成に役立っている。p.4 ○「SSHの市立千葉」というイメージが外部に広がりつつある。教職員の中でSSHが共通認識の柱になり、良い刺激になっている。p.4</p> <p>考察 ※理数教育の伝統や成果が生徒へ十分に浸透し、進路意識の啓発につながっている。 ○理数教育に対する卒業生や保護者の満足度は、高く、平成25年度3年生の理系進学希望者は50%と非常に高い。また、24年度に4年制大学に進学した卒業生のうち35%が理系大学に進学している。</p>	<p>聞き取り調査 ○今後、SSH第2期後の理数教育の成果や伝統をどのように継承していくかが課題である。p.5</p>

No	項目	成果	課題
4	文武両道の伝統など	<p>基本調査 ○部活動加入率は、平成16年度の77.3%に対して、22年度は91.9%、24年度は97.3%と上昇している。p.2</p> <p>アンケート調査 ○「文武両道で部活動が盛んである」という設問に生徒の76%(76%) p.10、保護者の87%(76%) p.13が「満足」と回答している。 ○「学校行事が充実している」という設問に生徒の71%(62%) p.10、保護者の92%(77%) p.13が「満足」と回答している。</p> <p>聞き取り調査 ○全学年、通年で行われている進学補習(朝及び放課後に実施)に多くの生徒が受講しており、夏季休業中にも26講座の進学補習が行われている。p.6</p> <p>考察 ※文武両道の伝統は引き継がれている。 ○生徒は部活動や行事に自覚と自信を持ち、参加し、主体的な活動を行っている。</p>	<p>聞き取り調査 ○進学校の部活動として、家庭学習の時間を確保することも大切であり、対応を検討する必要がある。p.6</p>

No	項目	成果	課題
5	中学校現場や地域へのアピールなど	<p data-bbox="387 320 427 499">アンケート調査</p> <p data-bbox="387 734 427 869">意見交換会</p> <p data-bbox="387 1171 427 1305">聞き取り調査</p> <p data-bbox="387 1686 427 1753">考察</p> <p data-bbox="464 226 1082 600">○「受検に当たり、市立千葉高校の特色を高校（説明会及びホームページ）から知った」と回答した者が、生徒の49%[説明会38%+ホームページ11%] p.8(順に34%/25%/9%)・保護者の55%[説明会46%+ホームページ9%] p.12(39%/32%/7%)と一番多い。 ○卒業生の63%が、「市立千葉高校の魅力や特色は、学外の友人等に知られている」と回答している。 p.16</p> <p data-bbox="464 633 1082 969">○25年8月に千葉都市モノレール車両の車内ポスターによる研究成果の発表や、同年9月に千葉都市モノレール千葉駅で生徒作品の展示を行い、好評を得た。 p.3 ○市内の小・中学校には、市立千葉高校の施設利用をアピールしており、今年の夏には市教研の理科の教員127名が来校し、学校を知る良い機会になった。 p.3</p> <p data-bbox="464 1003 1082 1496">○昨年、2回のSSH交流会(千葉市クロススクール科学フェスティバル・同フォーラム)により、異校種間の児童生徒の連携を深めるとともに、小・中学校の先生方との重要な交流の機会になった。 p.5 ○生徒会がクリーンアップ活動を主催したり、ダンス部、吹奏楽部及び合唱部等が、小仲台フェスティバル、小仲台地区敬老会、モノレール祭り、稲毛駅前でのコンサート等に参加したりして、地域との連携活動を行った。 p.6 ○SSH専用ホームページを作成し、地域へのアピールを積極的に行っている。 p.6</p> <p data-bbox="464 1529 1409 1906">※地域や中学校現場に、さまざまな形でのアピールがなされている。さらに市立高校ならではのアピールも検討する必要がある。 ○千葉都市モノレールとの連携やSSH交流会の開催をはじめ、授業の公開、ホームページの活用、地域活動への参加等様々な方策により、市内の小・中学校及び市民に対してPRに努めているが、特色や成果等をより一層PRするための手法を研究する必要がある。 ○中学生や中学校の教員に見てもらおうような、市立高校の良さを生かした積極的な授業公開等を検討していく必要がある。</p>	<p data-bbox="1106 241 1145 376">意見交換会</p> <p data-bbox="1161 226 1409 779">○文化祭は高校の内容を見る良い機会であり、毎年7月に実施しているが、その時期は中学3年生が最後の総合体育大会前に当たってしまうため、見学に行きにくいという課題がある。 P.3</p>

No	項目	成果と課題
6	学校現場からみた市立高校改革の方向性	<p data-bbox="475 215 1409 297">※市立高校改革における「進学重視」「単位制」「理数教育重視」は、大きな成果を上げている。</p> <p data-bbox="475 315 1409 398">○進学重視型単位制により、教員の定数が増え、多様な選択科目の実施やSSHなどの特色ある教育が実現できている。</p> <p data-bbox="475 416 1409 499">○1年からの進学指導を重視しているため、受験科目の多い国公立大学進学希望の生徒が多く、実際に合格する現役生徒も増加している。</p> <p data-bbox="475 517 1409 685">○理数教育重視が、生徒や保護者にも十分に浸透しているため、理系大学を希望する生徒の比率（平成25年度3年生の50%）が高く、生徒の多く（4年制大学に進学した24年度の卒業生の35%）が理系大学に進学している。</p> <p data-bbox="475 745 1409 828">※SSHの指定など文部科学省と学校との施策調整を行うため、教育委員会事務局の組織体制の強化が必要である。</p> <p data-bbox="395 846 1409 1014">考 察 ○国からの研究指定は、当該校の成果に留まらず、地域全体に効果が波及していくことが求められている。また、多額の予算が手当てされることもあり、教育委員会事務局の組織体制の強化や、学校とのより強い連携が必要になっている。</p> <p data-bbox="475 1075 1409 1115">※市立高校改革をさらに進めるための教員の確保が課題である。</p> <p data-bbox="475 1133 1409 1350">○SSHを実施するに当たっては、高い専門性、指導力、企画力の備わった理数科教員が必要である。そのため、県立船橋高校などのSSH実施校では、教員の公募制をとっている。しかし、市立千葉高校は、現時点で公募制をとっていない。SSHを推進する教員を引き続き確保するための手立てが必要である。</p>